

令和7年度「こくぶんじカレッジ協働事業」報告動画

【スライド1】

こんにちは。こくカレを運営しております、NPO 法人マルイスの、木村です。
よろしくお願いいたします。

【スライド2】

まず、NPO 法人マルイスについてご紹介します。
ビジョンは「くらす・まち・うごく」。「じぶんたちの、くらすまちで、うごいてみる」ことを
目指して活動しております。

【スライド3】

マルイスは前身の NPO 法人マイスタイル設立から数え20年が経過。国分寺やその
周辺地域で、まちづくりなどの事業に取り組んでまいりました。

【スライド4】

こくぶんじカレッジ、通称こくカレについてご報告いたします。
こくカレは①まちづくりの担い手の育成、②市民主体のまちづくり活動を事業目的
として、国分寺市都市づくり課とマルイスが協働事業として運営している半年間の連
続講座です。

【スライド5】

こくカレの3つの方針をご紹介します。
第1の方針は、国分寺のまちに想いをもった人ならどなたでも参加し、学びを得ら
れるよう、間口を広くすることです。
開講にあたっては「まちで何かしてみたい」という方を募りますが、これを実際の活
動につなげていただくことが重要です。情報発信に力を入れ、チラシ・Web・SNS はも
ちろん、説明会を何度も行い、意欲ある人材を発掘しています。
また、幅広い受講生の方が活動につなげられるよう、受講者おひとりおひとりとオン
ラインで個別面談をおこないその想いを理解します。講座中に編成する各グループに
はメンターを指定し、講座時間外のサポート体制の充実にも力を入れています。

【スライド6】

第2の方針は、受講生・修了生がさまざまな人とつながる機会を提供し、国分寺市
内の人材ネットワークを厚くしていくことです。

各年度の修了生が、私どもマルイスに参加し活動しています。これが修了生の「その後」の把握、活動のフォロー、あるいは活性化に繋がっていると考えています。

また、昨年度は同窓会が本格的に組織化しました。100人以上が参加した交流会を開催し、修了生同士が相互の活動を知り、そのことにより新たな取り組みの生まれやすい環境がまた一段と手厚くなりました。

【スライド7】

第3の方針は、実践の機会をつくるということです。7期では、国分寺市役所のぶんぶん広場等を会場に発表のイベントを開催しました。受講生のみなさんが、市民のみなさんの前に出ていって実践することで、直接の学びを得て、活動を「自分ができること」だと感じていただきます。7期では、発表会の名称を「こくカレ博覧会」と変更し、受講生だけでなく修了生も参加。より広がりのある形になりました。

【スライド8】

募集活動。ポスター、パンフレット、デジタルサイネージを活用。パンフレットは市内各施設だけでなく、協力いただける店舗さんなどにも配架。さらにこくカレ発イベントのこくフェスと連動し、駅前広場で広報出店しました。また、説明会も対面とオンライン、平日と週末、昼間と夜間を組み合わせ、参加していただける機会をできるだけ広げました。

【スライド9】

本日の本題、こくカレについて。「まちが自分ごとになる」をキーワードにして、これまでの7年間で269名の人材を育成してまいりました。

この経験と蓄積を活かし、引き続き、想いをもってまちづくりに携わる方の層を、さらに厚くしていくことを目指しています。

こくカレの特色は、「学びから実践まで一気通貫で実施するスクール」ということです。この特長をひきつづき踏襲し、受講生がそれぞれ国分寺のまちで実践する道すじと機会を提供し、修了後の自発的な活動へつなげています。

【スライド10】

次に連続講座の内容についてご説明します。

まず第1回。まずは多くが初対面の受講生どうし、互いを知るために、自己紹介を行います。つづけて……

【スライド11】

ゲスト講師にお越しいただき、受講生のインスピレーション・アイデアのもととなるような講演をしていただきました。

【スライド12】

第1・2回の間に、全受講生に対して個人面談を行います。スタッフが受講生の動機や、受講の背景を聞き取り、適切な支援を目指します。

【スライド13】

こくカレでは、講座だけではなく、学びを深めるための宿題を毎回出します。第1回の宿題はフィールドワーク、チームでまちを探索してもらい、まちへの理解を深め、活動のヒントをみつけます。第2回はまず、このフィールドワークの成果を発表。全チームの発表を通じて、まちの姿がすこし見えてきます。そして……

【スライド14】

活躍する修了生、4チームに活動を紹介してもらい、受講生にまちでの活動をより身近な、手の届く自分ごととしてとらえていただく機会を作りました。修了生はチームごとのディスカッションにも参加。さらに講座終了後には交流会を開催し、交流を深めます。

【スライド15】

第3回は、いよいよチームづくり。参加者がお互いをさらに知るためのグループワークのあと、各自アイデアを書いた紙を掲げながら、仲間を探しチームをつくります。

つまりこの回がチームのスタート地点。7期では新しい試みとして、このタイミングで、プロジェクトの概要についてチームで話し合う時間をとってできたばかりのチームの足がかりを確かにしました。

【スライド16】

第4回は、プロジェクトの中間発表の回です。まず、地域で活躍する方を講師にお招きし、各チームが発表したプロジェクトの進捗状況・アイデアに対して助言をいただきました。その後、さらにグループワークでプロジェクトをフラッシュアップします。

【スライド17】

第5回は、プロジェクトにさらにもう一段の磨きをかける回です。ワークショップを行い、気づかなかったアイデアや、見逃していたディテールへの気づきをうながします。

【スライド18】

第6回は、ついにプロジェクトの実践です。まちに実際に出て行って実践することで、まちづくり活動を継続するのに必要な知見、来場された方の反応、一気に多くの学びを得ます。7期では市役所ぶんぶん広場を活用。受講生が各ブースやシンボルなどの会場全体の計画をたて、一つ一つの部品を手作りしました。

また、今回新たに「こくカレ博覧会」に名称を変更。修了生も出店し、博覧会の名にふさわしい広がりのある内容にすると同時に、ここでも受講生と修了生の交流を促しました。

【スライド19】

第7回は最終回。プロジェクトを振り返り、これからを宣言し活動につなげる。つまり、実践のスタートの回と言えます。

ここで市内の農や福祉等に関する各団体の方やまちづくりに取り組む皆さんをお招きし、各チームのディスカッションに参加していただきました。

【スライド20】

以上がこくカレのカリキュラムでした。

また、博覧会の一環として、受講生の活動を紹介するパネル展示も行いました。

他にカリキュラム外でも、6月にセレオ国分寺で開催された「I love 国分寺」イベント内で、これまでにこくカレから生まれたプロジェクトのパネルや成果物の展示を行いました。

【スライド21】

こくカレの成果・波及効果について。1番目。まちづくりに関わり、自律的に企画立案実戦のできる市民の掘り起こしを行っています。

受講生は国分寺にこれまでも住んでいた方も、新たに住まれた方もいらっしゃいますが、まちで活動してみたい、あるいは活動の手がかりがほしいという方が多くいらっしゃいます。このような方の、足がかり、入り口、第一歩を作っています。

【スライド22】

2番目。具体的な成果としては、7期でも10のチームが10のプロジェクトを発表し、活動を形にすることができました。

【スライド23】

Bun Ring Park、おべんとりっぷ、どこでもカフェテラス、TERAKOYA ぶんじ……

【スライド24】

国分寺ノスタルジア、ぶんぶんコレカ、中高生のおもしろい居場所、家と暮らしの記憶
採集……

【スライド25】

はれのひパン、ケアシロウ Zine。

食、農、介護、家、トレーディングカード、こども。幅広い活動が生まれました。

【スライド26】

3番目。

修了生の活動継続を支援しています。

カリキュラム内でも、修了生がゲスト参加。受講生に継続しているプロジェクトを生み出した経緯・内容・継続する方法などを紹介し、講座後は交流会に参加して受講生とのつながりが生まれました。

新たな広がりを期待しています。

【スライド27】

また、昨年度は各受講年度の修了生から代表者を選出して、正式に同窓会を組織化しました。

交流会を開催し、112名の修了生が参加、それぞれが継続してる活動紹介を行い新たなつながりがうまれました。

今後も継続的な取り組みにすることで、活動発表と他の修了生の活動を知る機会を作り、さらなる広がりにつながるものと考えています。

【スライド28】

あらためてこれまでの蓄積をすこしご紹介します。

こくカレから生まれた多くのプロジェクトが自主自走し、独自でイベントの開催を行ったり、刊行物に掲載をされたり、講演を行ったりしています。

2期から生まれた「こくフェス Music Days」は昨年で4回目となる大規模音楽イベントを実施し、市内30か所以上で音楽に触れあう場が提供されました。

【スライド29】

他にもたくさんのチームが講座の中で生み出したプロジェクトをよりブラッシュアップして活動を継続しています。

市も協力している「西国縁日2025」とタイアップして、国分寺市の販わい創出に協力しているプロジェクトもありました。

【スライド30】

ぶんじのベンチというチームは市内のいろいろなところにベンチを設置し、コミュニケーションを促すプロジェクトですが、市の協力もいただき、市内の建設会社や塗装業者とつながりをつくり、建築廃材などの提供をうけて活動をつづけています。

【スライド31】

さて、受講生からの反応についてです。

講座終了後にアンケートを実施しています。すべての受講生が、こくぶんじカレッジが役に立ったと回答しています。

【スライド32】

自由記述回答からは、受講生が講座を受講したことにより、国分寺のまちで主体的に活動するための仲間を見つけ、まちや行政についての情報を知り、講座内で実施した活動から、各自の役割や活動への関わり方の体験を得られたことが伺えました。

【スライド33】

また、「事務局が適切に機能していたか」との設問では、受講生にとって事務局が目的に沿い適切に講座を運営していたことが、評価されています。今年度も、これまでの経験をもとに、市と協力して、それぞれが得意なノウハウを提供しながら、さらに魅力的な講座になるようにきめ細やかな運営を行っていきます。

【スライド34】

以上です。ありがとうございました。